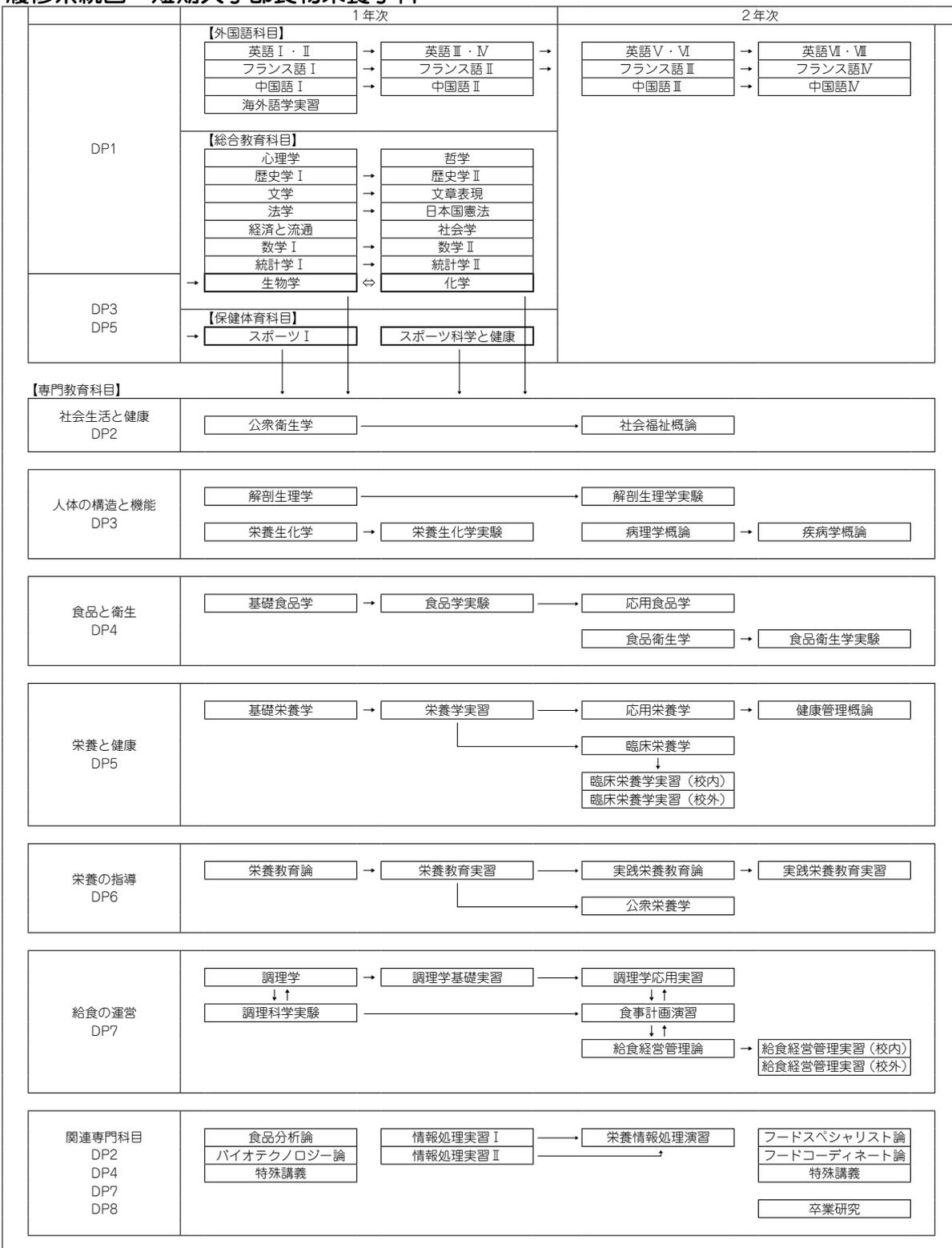


履修系統図 短期大学部ビジネス教養学科

DP	1 年次		2 年次	
DP6 DP7 DP8	スポーツ総合 スポーツ科学と健康	スタディ・スキルズ → キャリアデザイン インターンシップ		
DP1 DP6		英語 I → 英語 II → 英語 III → 英語 IV 海外語学実習		
DP3 DP6	文章表現	ビジネスマナー ビジネス文書 I 情報処理概論 情報処理実習 I	コミュニケーションとプレゼンテーション ビジネス英語 I → ビジネス英語 II ビジネス文書 II 情報処理実習 II	
DP4 DP5 DP7 DP8	経済学	経済学原論 簿記論 商学総論 マーケティング論	経済史 財政学 会計学 税法 原価計算論 消費者行動論 流通システム論	基礎ゼミナール
		経営学総論 金融ビジネス論 ビジネス法務基礎	国際経営論 地域産業論 経営法規 経営史	
DP2 DP4 DP5 DP7 DP8		観光法規 国内観光地理 国内観光実務	観光ビジネス論 海外観光地理 海外観光実務 ホスピタリティ産業論	
DP1 DP2 DP4	日本近現代史 世界近現代史 哲学 文学 法学 日本国憲法 社会学 心理学 数理の世界 生命の科学 調査統計論		国際関係論入門 国際文化論入門 国際関係論 現代社会論 マスメディア論 ジェンダー論 特殊講義 I 特殊講義 II	

ディプロマ・ポリシー
DP1：社会人として確かな教養と高い倫理観を持ち、社会に貢献する姿勢を常に持つことができる。 DP2：グローバル社会と文化の多様性を理解し、地域に貢献することができる。 DP3：ビジネス教養学科の専門分野における情報の選択と分析ができる。 DP4：専門分野における基本的な知識を身に付け、実務に即応した解決策を提案することができる。 DP5：新しい知識への拡大を伴った興味を育み、自己の能力を高める目標設定ができる。 DP6：他者との協働とコミュニケーションを通じ、ビジネス環境で自らの意見を説明し伝えることができる。 DP7：社会人として必要な組織と個人の役割を理解し、組織の一員として自己をマネジメントできる。 DP8：自己を理解でき、自らの価値観を拠り所としたキャリアパスを発見、選択することができる。

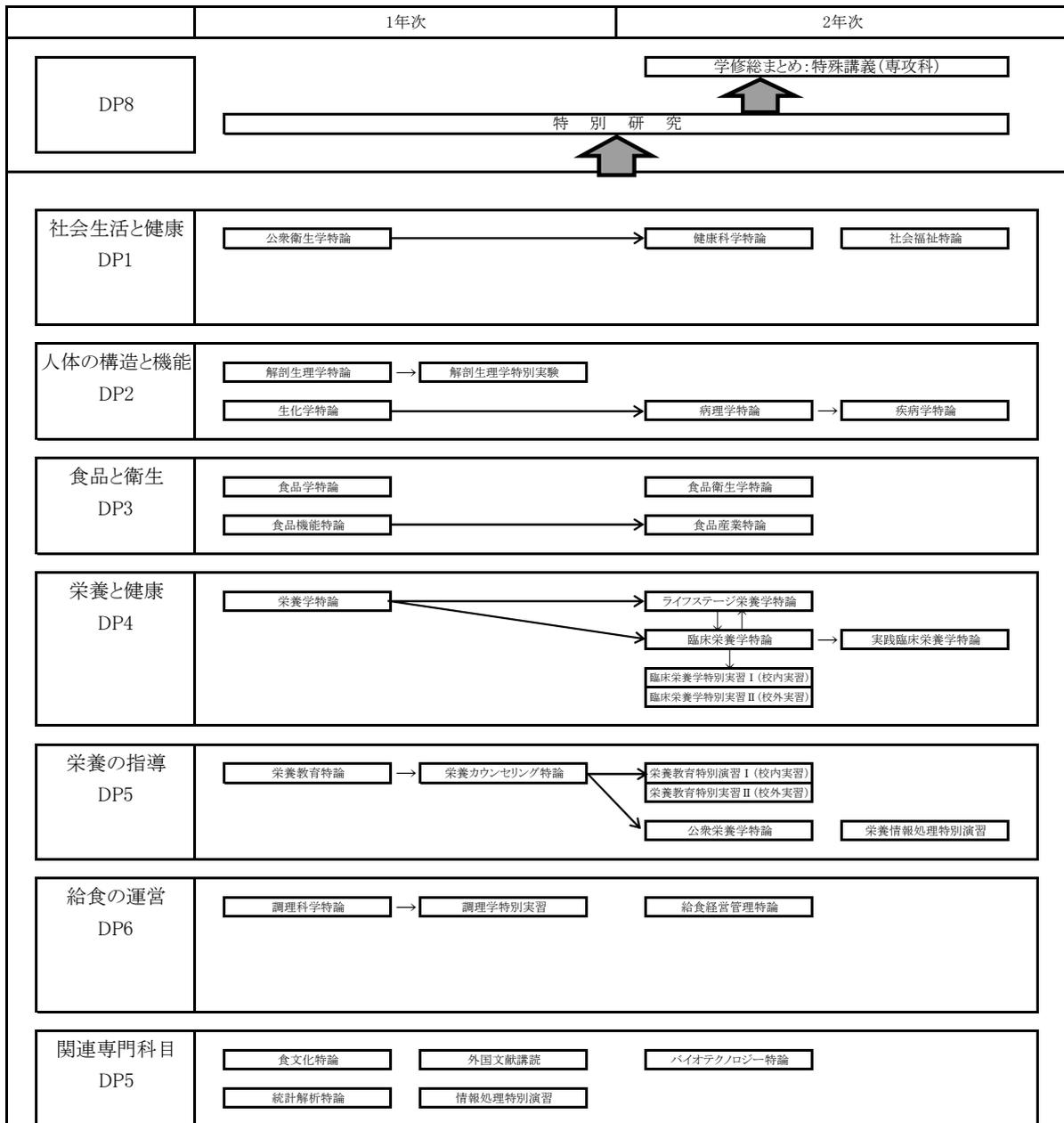
## 履修系統図 短期大学部食物栄養学科



### ディプロマ・ポリシー

- DP1：社会人として幅広い教養と栄養士としての倫理観を高めることができる。
- DP2：社会や環境と健康との関係を理解し、保健・医療・福祉・介護システムの基礎的知識を身に付けることができる。
- DP3：人体の仕組み・構造や機能を理解し、食事・運動・栄養など基本的な生活活動や環境変化に対する人体の適応について基礎的知識を身に付けることができる。
- DP4：食品の各種成分の栄養特性を理解し、食品の安全性の重要性を認識し、衛生管理の基礎的知識を身に付けることができる。
- DP5：基礎的な栄養の意義と栄養素の代謝及び生理的意義を理解し、性・年齢・生活・健康状態における栄養生理的特徴及び各種疾患における食事療法を身に付けることができる。
- DP6：栄養指導の基礎的役割や栄養に関する各種統計について理解し、基礎的な栄養指導の方法を身に付けることができる。
- DP7：給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する基礎的な技術を身に付けることができる。
- DP8：自己の取り組む栄養学に関する研究課題を、栄養学的に考察し、その重要性を説明・説得することができる。

# 履修系統図 短期大学部専攻科食物栄養専攻



**ディプロマポリシー**

- DP1: 短期大学部で習得した幅広い教養と栄養士としての倫理観を高めることができる。
- DP2: 実社会における実務としての栄養学に関する対応能力を持ち、創造的に活用し、国際的な知識や情報を受信・発信することができる。
- DP3: 短期大学等で修得した専門知識と技術に加えて、より高度な専門的知識と実践的技術を持って、食と健康について多面的に考察することができる。
- DP4: 自覚的に自己研鑽を継続する姿勢を持ち、広い視野から関連科目を研究し、問題解決のために活用できる。
- DP5: 社会・生活環境や健康・栄養状態の特徴に基づいた栄養教育の展開についての応用的知識と、我が国や諸外国の健康・栄養問題に関する栄養政策について提案することができる。
- DP6: 多職種との連携を持ち、地域社会のニーズに合わせた豊かな食生活と健康の維持・増進に貢献できる。
- DP7: 食べ物の特性をふまえた食事設計及び調理の役割の理解と、特定給食施設における食事の提供に関わる栄養・食事及び経営管理について身に付けることができる。
- DP8: 自己の取り組む栄養学に関する研究課題を、栄養学的に考察し、その重要性を説明・説得することができる。